

資料集活用プリント(例)(教師用)

テーマ学習「合理化と民主社会」(資料集189ページ)

◆資料集本文

【板書例】

◆この欄は、先生方が板書で説明しきれない、授業内容にまつわるエピソードや特記事項を、生徒が書き込める欄として活用できます。ここでは、板書以外の情報を参考までに説明として書いています。

われわれの生きる社会は民主制の社会であり、われわれは一人ひとり、法のもと、平等に様々な権利をもち、国民の義務を果たしながら、自由で平和な社会を享受している。こうした現代の民主社会の考え方の特徴は何か、西欧社会に焦点を絞って考えてみよう。

近代以前の社会においては、人による支配が基礎となっており、それは長老制や家長制、封建制といった伝統的な支配であり、伝統の神聖さとそのことに基づいて権威を与えられ得た者の正当性に基づいた支配である。しかし、これらはいずれも人による恣意的な統治であったため、統治者の性格や気分、あるいは宗教的な熱狂によって、極めて恣意的になり、非合理であり、支配者層のための政治として民衆には不平等であり、結果として多くの人々の自由や財産を奪うことになった例が少なくない。しかし、支配者の継続性の強化という観点でいえば、どの政治制度にも一定の合理性がある。例えば長老制の社会では、伝統的という理由によって正当性をもたせており、合理的である。また、恣意性の強い、優れたリーダーシップによるカリスマ、例えばカエサルやアレクサンドロスなどに支配された社会は、リーダーの目標達成という意味で合理的な社会であった。

封建制や身分制の場合にも同様の正当性が見られ、合理的である。しかも西欧の身分制社会においては、国王の政治体制に、常備軍と家産官僚制が加わって、より強固な支配基盤となっていた。こうした政治制度の強化は、以前の制度より極めて合理的である。西欧社会の支配のシステムは、合理化の歴史であったともいえる。では、なぜフランス革命はおきたのか。革命以前のフランスにおいては、身分制社会の中で、多くの民衆が理不尽な抑圧に苦しんできた。それは、正義の観点から見て不合理なことだと考えた民衆は、社会契約説を理論的な根拠としつつ、自由で平等な社会こそ、合理的で、正しい社会と信じ、市民のための社会の樹立を目標に革命をおこした。こうして生まれた西欧市民社会においては、個人の自由、平等、生命や財産を守るため、人民主権のもと、政治権力の均衡をはかる三権分立の制度を構築した。そうした社会を代表するリーダーを選出する仕組みとして、伝統によらず、かつ、個人の力としてのカリスマによらない、主権者である人民が選出する大統領制や議会制などを構築したのである。

現代の民主制の基本的な考え方は、正義に基づく合理的なシステムということに大きな特徴があるといえるだろう。しかし、この支配形態は、システムとしての合理性や効率性は高いものの、個人の自由、平等、生命や財産を守るという近代民主主義の初心に返る時、理想の民主主義としては、公共の福祉の実現や、個人の安全と国家レベルの正義との調和の観点から見て、未完成といわざるを得ない。良き君主制のほうが衆愚制に陥った民主制よりも優れているという言い分も成立するかのようである。衆愚制は、システムという手段を重んじるあまり、社会善を遂行できない政治となってしまう、個人の主体性を損なわせる。

真の民主主義は、各人の正義に基づく行動が基盤であり、一人の正義が社会全体の善となる理想社会をめざして、私たちは、主体的に、よりよく生きることが重要なのである。

○正当の支配の類型

理念型	支配の正当性の根拠	例	ここもポイント!
伝統的支配	昔から存在している秩序の神聖性への信仰	長老制, 家父長制, 封建制, 身分制	※封建制: 世界的には、土地を媒介にした封建制は中世西欧と鎌倉期日本のみで発達。中国の封建制は、血縁が優先。
カリスマ的支配	支配者個人の天与の資質に対する被支配者の帰依の感情	官職カリスマ (ローマ教皇), 世襲カリスマ (カエサルの息子アウグストゥス), 個人カリスマ (イエス) など	※日本ではカリスマは流行語になっているが、本来は、原始キリスト教の用語。一般的には、官職や世襲のほかに、個人の資質がカリスマ性を持つと言われる。
合法的支配	形式的に正しい手続きによって定められた制定規則	最も純粹な型 ～官僚制的支配	※官僚制的支配では、人に服従するのではなく、制定された規則に対して服従するのが特徴。支配権は、法によって与えられた「権限」の範囲内で行使される。

※国家、公共団体のほか、資本主義的経営内部での支配形態もこの類型に入る。  
(会社の社長と社員!)

- 官僚制に見られる主な特徴
- 1 規則による権限の分配
  - 2 階層制の確立
  - 3 業務の文書主義
  - 4 専門家による職務の遂行
  - 5 公私の分離

◆資料集掲載の読解問題

○ヨーロッパ中世  
国王と臣下による個人的領地経営

○所領の分割が小さくなり、土地を媒介とした騎士との契約が難しくなってきたことや、没落騎士を、給与などの形で雇うなどの状況も現れてきた。

→ 家臣が増え、領地(荘園)からの収益も多くなるなど個人的な計算だけでは家計のやりくりが難しくなってきた。

官僚制(家産官僚制・・・君主のもちもの) → 身分制社会の形成  
給与で雇う軍隊の常設・・・君主のための常備軍

統治システムの合理化!

○フランス革命

ブルボン朝=伝統的支配 → 民衆の苦しみ → アンシャンレジーム(旧体制)の打倒 → 西欧市民社会の登場  
社会契約説の登場、権利の考え方の流布など

○西欧市民社会の理想

個人の自由、平等、生命や財産を守るため、①人民主権で、②政治権力の均衡(三権分立等の考え方)を図る政治を模索

民主制: 議会制民主主義, 共和制, 大統領制, など

※合理的≠正しさ

「合理的」なことや「合理主義」は、方法や考え方であり、正しくなくても合理的なことはある。方法や手段としての合理性と、正義や善などの目的や価値を意味するものとは、同じではない。したがって、民主政治を行う際には、正義に基づく合理的なシステムを構築することが大切。

○「正義に基づく合理的なシステム」の課題

・公共の福祉の実現 → 個人と国家の優先バランス → もともと民主主義は、個人の自由や平等、生命や財産の保護が目的

民衆の基本的な願い 個人の自由や平等、生命や財産の保護 → 社会契約説などの登場

↓  
三権分立・・・国民主権, 主権在民

システム重視の政治  
→ 民主制ではなく、衆愚制となる危険あり、制度を重んじるあまり、民衆の基本的な願いの達成が困難になる。  
官僚制の弊害やリーダー不在の危機も顕在化。

良き君主制  
→ 君主のリーダー性によって人々の思いが充足され、歴史的には高い評価の例も見られる。

統治システム  
・法の下での平等  
・民主制(大統領制, 議会制等)  
・多数決の原理 など

政治: 価値と仕組みの調和・・・真の民主主義のために必要  
個人: 主体的に、よりよく生きることが大切

【倫理フラッシュ】

○ M. ウェーバーは、日本の官僚制は、大化の改新から起こったとする。この官僚制は、聖徳太子によって制度化(官位十二階の制などは出色の制度!)。ただし、これは、貴族社会の制度であり、身分制的で、こうした官僚制を「家産官僚制」と呼ぶ。

○ 音楽の合理性は、いかにも西欧だ。バッハのバロック音楽は数学的だという音楽評論家もいる。たしかに、通奏低音のうえに積み重なる音たちは、まさに合理的な和音の連なりである。これに対し、日本の音楽は、資料集の第3章「1 日本思想の概説と日本の風土と人々の考え方」の「伝統文化と現代日本を生み出した感性と忍従」にあるように、合理的な和音ではない、独特の「和音の崩れ」がある。しかし、崩れても全体としての完成度は高い。また、楽器の特性などから、「間」というものも重要な。合理性とは観点の違う強固な伝統もまた味わい深い。

【読解力 プラスα】

■「合理化と民主社会」の内容として、最も適切なものを次の①～④から選べ。

- ① 西欧の社会は合理化の歴史であり、長老制からカリスマ制、封建制などをへて、民主制に到達した。高度に合理化された社会は、システムとして優れており、社会善の実現を追求するのにもっともふさわしい社会形態である。
- ② 西欧の社会は合理化の歴史であり、民主制は優れた社会システムであるが、単に合理的であればよいのではなく、合理的なるものの基本に、正義がなければならず、個人主義の最高到達点が現代の民主制である。
- ③ 西欧の社会は合理化の歴史であり、その過程で、現代の民主制につながる近代市民社会が成立した。その社会の成立根拠には、自由、平等などの正義を守るという精神があり、それを踏まえながら、社会全体の善を実現すべきである。
- ④ 西欧の社会は合理化の歴史であり、長老制などのシステムの合理性も、カリスマによる支配の合理性も、同一の合理性であり、一定の合理的な支配形態はそれぞれに良さがあり、その時代の社会善を映した鏡のようである。

※解説

①は、民主制は社会善を追求するのにもっともふさわしいとしているが、本文ではそこまでの言及はない。  
②は、個人主義の最高到達点が現代の民主制としているが、その言及はない。  
④は、長老制もカリスマ支配もそれぞれに良さがあり、社会善を写した鏡だとしているが、支配の正当性の観点からみたこうした記述はない。

解答 ③

【応用問題】 「正義の実現」について、(動機の善)と(善なる行為)を柱に、1200字で、小論文を書いてみよう。

今回の資料集は、テーマ学習が充実! センター試験のリード文の読解が大きな鍵! このプリント学習で、さらに活用が充実!

# 資料集活用プリント(例)(生徒配布用)

## テーマ学習「合理化と民主社会」(資料集189ページ)

われわれの生きる社会は民主制の社会であり、われわれは一人ひとり、法のもと、平等に様々な権利をもち、国民の義務を果たしながら、自由で平和な社会を享受している。こうした現代の民主社会の考え方の特徴は何か、西欧社会に焦点を絞って考えてみよう。

近代以前の社会においては、人による支配が基礎となっており、それは長老制や家長制、封建制といった伝統的な支配であり、伝統の神聖さとそのことによって権威を与えられ得た者の正当性に基づいた支配である。しかし、これらはいずれも人による恣意的な統治であったため、統治者の性格や気分、あるいは宗教的な熱狂によって、極めて恣意的になり、非合理であり、支配者層のための政治として民衆には不平等であり、結果として多くの人々の自由や財産を奪うことになった例が少なくない。しかし、支配者の継続性の強化という観点でいえば、どの政治制度にも一定の合理性がある。例えば長老制の社会では、伝統的という理由によって正当性をもたせており、合理的である。また、恣意性の強い、優れたリーダーシップによるカリスマ、例えばカエサルやアレクサンドロスなどに支配された社会は、リーダーの目標達成という意味で合理的な社会であった。

封建制や身分制の場合にも同様の正当性が見られ、合理的である。しかも西欧の身分制社会においては、国王の政治体制に、常備軍と家産官僚制が加わって、より強固な支配基盤となっていた。こうした政治制度の強化は、以前の制度より極めて合理的である。西欧社会の支配のシステムは、合理化の歴史であったともいえる。では、なぜフランス革命はおきたのか。革命以前のフランスにおいては、身分制社会の中で、多くの民衆が理不尽な抑圧に苦しんできた。それは、正義の観点から見て不合理なことだと考えた民衆は、社会契約説を理論的な根拠としつつ、自由で平等な社会こそ、合理的で、正しい社会と信じ、市民のための社会の樹立を目標に革命をおこした。こうして生まれた西欧市民社会においては、個人の自由、平等、生命や財産を守るため、人民主権のもと、政治権力の均衡をはかる三権分立の制度を構築した。そうした社会を代表するリーダーを選出する仕組みとして、伝統によらず、かつ、個人の力としてのカリスマによらない、主権者である人民が選出する大統領制や議会制などを構築したのである。

現代の民主制の基本的な考え方は、正義に基づく合理的なシステムということに大きな特徴があるといえるだろう。しかし、この支配形態は、システムとしての合理性や効率性は高いものの、個人の自由、平等、生命や財産を守るという近代民主主義の初心に戻る時、理想の民主主義としては、公共の福祉の実現度や、個人の安全と国家レベルの正義との調和の観点から見て、未完成といわざるを得ない。良き君主制のほうが衆愚制に陥った民主制よりも優れているという言い分も成立するかのようである。衆愚制は、システムという手段を重んじるあまり、社会善を遂行できない政治となってしまう、個人の主体性を損なわせる。

真の民主主義は、各人の正義に基づく行動が基礎であり、一人の正義が社会全体の善となる理想社会をめざして、私たちは、主体的に、よりよく生きることが重要なのである。

### 【倫理フラッシュ】

### 【読解力 プラスα】

■「合理化と民主社会」の内容として、最も適当なものを次の①～④から選べ。

- ① 西欧の社会は合理化の歴史であり、長老制からカリスマ制、封建制などをへて、民主制に到達した。高度に合理化された社会は、システムとして優れており、社会善の実現を追求するのに、最もふさわしい社会形態である。
- ② 西欧の社会は合理化の歴史であり、民主制は優れた社会システムであるが、単に合理的であればよいのではなく、合理的なるものの基本に、正義がなければならず、個人主義の最高到達点が現代の民主制である。
- ③ 西欧の社会は合理化の歴史であり、その過程で、現代の民主制につながる近代市民社会が成立した。その社会の成立根拠には、自由、平等などの正義を守るという精神があり、それを踏まえながら、社会全体の善を実現すべきである。
- ④ 西欧の社会は合理化の歴史であり、長老制などのシステムの合理性も、カリスマによる支配の合理性も、同一の合理性であり、一定の合理的な支配形態はそれぞれに良さがあり、その時代の社会善を映した鏡のようである。

※解説

解答 ③

【応用問題】 「正義の実現」について、(動機の善)と(善なる行為)を柱に、1200字で、小論文を書いてみよう。